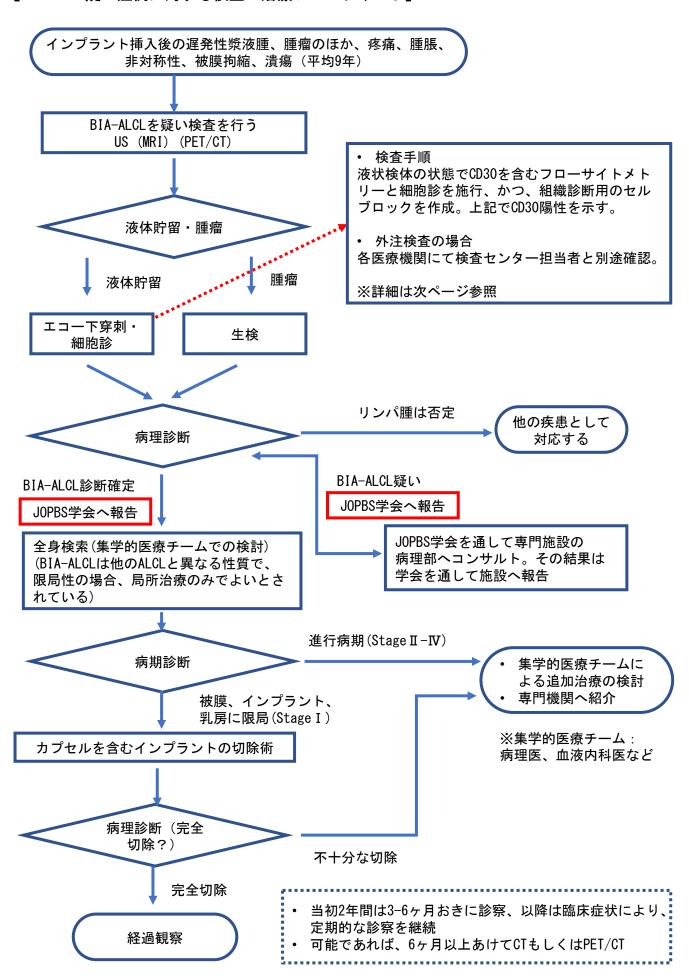
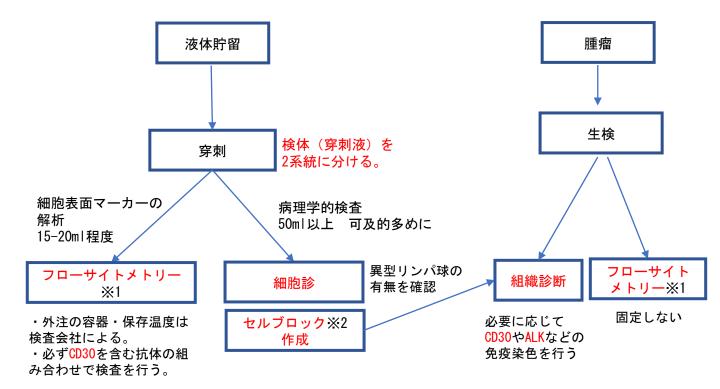
## 【BIA-ALCL疑い症例に対する検査・治療フローチャート】



## 〈BIA-ALCL検査手順詳細〉



※1 フローサイトメトリーは一般的には施設の病理部門では対応していないことが多いです。 ※2 セルブロック法とは細胞診検体を沈殿固定し、包埋ー薄切を行なうことで、疑似組織的な 標本を作製する手法。病院に病理部門があれば通常は必要に応じて対応できます。外注先はセ ルブロックを作成できないので、セルブロック作成後の依頼、もしくはスライドグラスに乗せ て免疫染色を依頼、となります。各施設の状況に応じて、学会で相談を受けることが可能です。

・それぞれの検査結果の解釈が難しい場合は、学会で相談を受けることが可能です。

	解析法	解析可能時期	診断確定のための必要性
1	細胞診	検体採取時にしかオーダーできない	やった方がよい (1か2のどちらかは最低限必須)
2	セルブロックの作成及び組織診	検体採取時にしかオーダーできない	やった方がよい (1か2のどちら かは最低限必須)
3	CD30を含むフローサイトメトリー	検体採取時にしかオーダーできない	やった方がよい (出来ない場合 は4である程度代用可能)
4	CD30 (及びその他) 免疫染色	保存(セル)ブロックに対して施行	1, 2, 3で異常所見があった場合 に行う.
5	ALK免疫染色	保存(セル)ブロックに対して施行	CD30陽性リンパ腫であると確定 した時点で行う.
6	細胞診スメアに対するALK FISH	検体採取時にしかオーダーできない	不要
7	ALK FISH	保存(セル)ブロックに対して施行	不要(ALK免疫染色陽性例や、研究・報告用途など特殊な場合)

日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会 (JOPBS) 事務局e-mail: jopbs-office01@shunkosha.com